

長岡税務署長賞

消費税との向き合い方

新潟県立長岡商業高等学校

三年 猪飼 琴海

税という言葉を聞くと、私は真っ先に「消費税」が頭に浮かびます。というのも、私たち消費者にとって身近であり、問題視されやすいからだと考えられます。

今や当たり前に存在している消費税ですが、導入されたのは今から約三十年前の一九八九年ということで、割と最近の出来事だということに驚きます。初めは三パーセント、それから五パーセント、八パーセントと上がっていき、現在は十パーセントにまで増税されました。当然メリットがあつての増税ですが、国民の負担が大きくなるため、デメリットもあると思います。

消費税は国税と地方税に分かれ、消費税十パーセントのうち、二・二パーセントは県や市町村に還元されます。近年少子高齢化が深刻化する中で、人口減少や高齢化により税を納めることが難しい地域でも税収を維持しやすいというメリットがあります。また、これからは多くの高齢者を少ない若者が支えていかなければなりません。現役世代から徴収する所得税や法人税とは違い、消費税は国民全ての人が何かを購入

するたびに必ず平等に払うため、現役世代の負担を軽減するのにつながると思います。二〇一九年十月一日に消費税十パーセントに引き上げられるのが決まった時に、とある二ユー・ス番組で街の人の声を聞くというコーナーがありました。先に述べた様に、若者の負担が減るといふ点から賛成という人のほかに、増税に反対という声もありました。それは、所得が高くても低くても同じ税率のため、所得の低い人ほど負担が重くなるというものでした。確かに消費税は国民から平等に徴収でき、公平という意味では良い様に思えます。しかし、厚生労働省が二〇一九年七月に発表した「国民生活基礎調査」では、調査した世帯の五十七パーセントが生活に苦しんでいると回答していて、増税によって苦しい思いをしている国民も少なくはありません。

税収の多くを占めるのは所得税や法人税、消費税の三つがあります。ですが、所得税や法人税は景気によって左右されやすい傾向があります。それに比べて消費税は、一定の税収が見込めるため、増税によるメリットも多くあります。しかしそれによって苦しい思いをする企業、国民がいることを忘れてはならないと思います。消費税増税によってメリットとデメリットのどちらも生じるが、国民全員が公平・平等であり、少しでも負担が軽減されるということが今後大切になってくると思います。まだ学生である私には、今出来ることはごく一部でほとんど無いけれど、税に関して調べ自分の意見を持つことは出来ます。これから社会人になり、より税を身近に感じるようになると思うので、国民の一人としてこれらの日本について考えることから始めたいです。